

やまとりほいせき 山鳥場遺跡現地説明会資料

(一財) 長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

1. 調査の概要

長野県埋蔵文化財センターでは、県道御馬越塩尻停車場線建設に伴い、平成28年7月から山鳥場遺跡の発掘調査を開始しました。今年度の調査区では、縄文時代中期（約5,000年前）とみられる複数の^{たてあなじゅうきよあと}堅穴住居跡、さらには縄文時代後期～晩期（約3,000～4,000年前）の遺物を含む土層がみつき、土層中からは珍しい土製の耳飾りも発見されています。

所在地：東筑摩郡朝日村大字西洗馬 1448-1

調査面積：800㎡

発掘作業の期間：平成28年7月1日～9月30日

検出遺構：堅穴住居跡 10軒（縄文時代中期）土坑 約80基（縄文時代中期～晩期）

出土遺物：縄文時代の土器・石器、耳飾りなど

2. 遺跡の位置と地形

遺跡は^{くさりがわ}鎖川の支流である内山沢が形成した扇状地に立地し、調査区は南から北に向かって緩やかに傾斜しています。標高は約780mです。縄文時代の堅穴住居跡は、10軒確認できていますが、住居跡の一部は調査区外に広がり、遺跡の住居跡総数は、現在確認されているよりも多く、ムラの規模も大きいと推測されます。

朝日村には、山鳥場遺跡の中心となる時期（縄文時代中期）とほぼ同時代の^{くまくほいせき}熊久保遺跡の発掘調査が行われています。この遺跡は山鳥場遺跡から直線距離で西へ約1.5km離れた場所（鎖川を挟んだ対岸・朝日村美術館付近）に位置し、堅穴住居跡は約100軒もみついています。今後、両遺跡の調査成果を検討することで、朝日村における縄文時代のムラ同士の交流が明らかになると考えています。



山鳥場遺跡で発見した縄文時代の生活痕跡（白線の範囲）

3. 主な出土遺物

縄文時代中期の土器（約5,000年前）

熊久保遺跡から出土した土器と同じように土器の表面に粘土の紐をはり付けて、渦巻、直線、曲線などを表現した土器が、この遺跡でも出土しています。



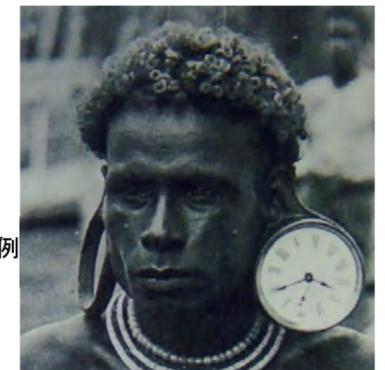
『熊久保遺跡第10次発掘調査報告書』朝日村教委 2003より

縄文時代晩期の土製耳飾り（約3,000年前）

耳たぶに穴をあけてピアスのように使用したと考えられます。文様のあるものとないものがあります。



写真中央のもので直径約3cm



耳飾りの装着例

『佐久の古代遺産図鑑』
ハヶ岳旧石器研究グループ 2010より

磨石（縄文時代）

縄文人の代表的な石器。手で持てる程度の大きさで、石皿の中で木の実を磨り潰す道具



矢印の部分に見えるくぼみに、クルミやドングリを置いて割ったと考えられます。



磨石と石皿の使用例



木の実を割るとき
の使い方

上下とも『縄文人の一生』
長野県立歴史館 1996より